



教職員のサポートのもと、仲間と共にレースに挑む

鈴鹿高专チームのソーラーカーレースへの参加は、学校が掲げる創

造教育プロジェクトの一環。現在も教育研究支援センターの技術専門職員、鈴木昌一さんを中心に、多くの教職員がアドバイザーやサポートを行っている。積極的に支援を行っている。取材時もソーラーカーに携わる教職員が多数集まり、温かい目で学生たちを見守っていた。

造教育プロジェクトの一環。現在も教育研究支援センターの技術専門職員、鈴木昌一さんを中心に、多くの教職員がアドバイザーやサポートを行っている。積極的に支援を行っている。取材時もソーラーカーに携わる教職員が多数集まり、温かい目で学生たちを見守っていた。



ものづくりの基本を学ぶ、知的なモータースポーツ

「DREAM CUP ソーラーカーレース鈴鹿」は、クリーンな太陽光のエネルギーで走る車づくりを目指す。1992年に始まった。国際自動車連盟（FIA）公認の世界大会であるため、海外チームも参加。19回目の今年はオランダ、トルコ、オーストラリアのチームが名乗りを上げています。昨年、現在の形でのレース開催は2010年を最後にするとの発表がなされたが、本年4月、開催方式は変更されるものの来年以降の継続が伝えられた。

レースは8時間と4時間の2つの耐久レースが行われる。8時間耐久では2日間に分けて4時間ずつ走行し、その合計の走行周回数を競う。現在3つのクラスがあり、搭載バッテリーが自由な上級者向けの「DREAMクラス」と、出力や使用するバッテリーに制限がある中級者向けの「CHALLENGEクラス」、それに2008年大会から新設された「オリンピッククラス」に分けられている。オリンピッククラスは車体が4輪であることなど、世界共通のソーラーカーのカテゴリーによる車両で争われるレースだ。

4時間耐久レースが始まったのは、1999年の大会から。初心者向けとして、より多くのチームが参加しやすいように4時間1ヒートの耐久レース。「ENJOYクラス」の名の通り、出場チームの年代も幅広く、それに挑むことになる3人のドライバーにレースへの意気込みを聞いた。



教育研究支援センターの技術専門職員、鈴木昌一さん

「2年生のとき、目の前で先輩たちが79周という、うちのベスト記録を作った。ぜひ、80台を出して記録を塗り替えたい」と佐野成太さん（機械工学科4年）。続いて重松昌樹さん（機械工学科4年）は「全力で行くだけ。昨年スタートでミスをしてしまった。今回はそんなことがないように頑張るのみ」と力強く話す。「来年からはオリンピッククラスに移るので、この車両での最後のレース。メンバーもマシンも悔いが残らないように完全燃焼したい」と、金谷さんはチームを代表しての心境を語ってくれた。

3人は昨年に続いてドライバーを務める。初回参戦時からマシン名には「DEVEL」が付く。Dはドライバー、Eはエコロジー、Vはヴィークル、Lはライフで、さらにディヴェロップメント（発展、開発）に通じる

DREAM CUP ソーラーカーレース鈴鹿2010

開催日程 7月30日(金) 31日(土) 8月1日(日)

鈴鹿高专チームが出場する8時間耐久レースは、7月31日(土)に決勝第1ヒート、8月1日(日)に決勝第2ヒートがそれぞれ行われ、その合計周回数を争う



(左から) キャプテンで機械工学科4年の金谷竜次さん。機械工学科4年の重松昌樹さん。機械工学科4年の佐野成太さん。3人は去年に続きドライバーを務める

巻頭特集 鈴鹿工業高等専門学校 ソーラーカー研究会

毎夏、鈴鹿サーキットで開催される「DREAM CUP ソーラーカーレース鈴鹿」。企業チームに混じって、近年は高校、大学を中心に学生チームの出場も多い。そのなかでも、鈴鹿工業高等専門学校は第1回大会からフル参戦している。6月28日に行われるレースの試走会に向けてマシンの最終調整に追われる同校ソーラーカー研究会を訪ねた。

熱い思いをのせて、静かに周回を刻む

取材・写真協力 / 鈴鹿工業高等専門学校 ソーラーカー研究会

